

日本YWCAの使命(ミッション)
イス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人人々に共に人権・平和・環境の問題に取り組む

# YWCA 3

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074
東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
E-mail: office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子
振替 00170-7-23723(毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)
www.ywca.or.jp



## この1年の中国との交流 南京からひろしまへ

「南京を考える旅2007」には、日中から10代～70代までの50余名が参加。



南京では毎夜、日中の参加者がグループに分かれてディスカッションを重ねた。



リニューアルされた「侵華日軍南京大虐殺 遭難同胞記念館」広場には「和平」の母子像がそびえている。

2総会期前、中国YWCAからの「交流を再開し協働の道を探りませんか」という提案を受け、当時の会会や役員を中心に、中国を訪問したのが小さな芽であった。そして2005年、日本YWCA100周年を記念して行った「ひろしまを旅」に、中国YWCAと韓国YWCAからお招きしてワークショップをもつたのが、その芽に水を注ぐことになった。

2007年は日中戦争勃発70年にあたり、12月はまさに日本軍が南京を攻撃した月である。私たちは「ひろしまを旅」で1945年8月の広島島の暑さを追体験するのと同様に、今回の「南京を考える旅」で1937年12月の南京の寒さに想いを馳せることになった。

長い総会期、この1年の日中間の交流、そして「南京」を考える旅。実現までの経緯を振り返るとき、私は中国YWCAの愛を感じずにはいけない。

一連の過程を終ったこの1年の日中間の交流、そして「南京」を考える旅。実現までの経緯を振り返るとき、私は中国YWCAの愛を感じずにはいけない。

「南京」は「平和」の平和の架け橋となるような種を撒き育てていきたい。

2007年秋、全国総会の前、中国YWCAからの「交流を再開し協働の道を探りませんか」という提案を受け、当時の会会や役員を中心に、中国を訪問したのが小さな芽であった。そして2005年、日本YWCA100周年を記念して行った「ひろしまを旅」に、中国YWCAと韓国YWCAからお招きしてワークショップをもつたのが、その芽に水を注ぐことになった。

2007年秋、全国総会の前、中国YWCAからの「交流を再開し協働の道を探りませんか」という提案を受け、当時の会会や役員を中心に、中国を訪問したのが小さな芽であった。そして2005年、日本YWCA100周年を記念して行った「ひろしまを旅」に、中国YWCAと韓国YWCAからお招きしてワークショップをもつたのが、その芽に水を注ぐことになった。

2007年秋、全国総会の前、中国YWCAからの「交流を再開し協働の道を探りませんか」という提案を受け、当時の会会や役員を中心に、中国を訪問したのが小さな芽であった。そして2005年、日本YWCA100周年を記念して行った「ひろしまを旅」に、中国YWCAと韓国YWCAからお招きしてワークショップをもつたのが、その芽に水を注ぐことになった。

2007年秋、全国総会の前、中国YWCAからの「交流を再開し協働の道を探りませんか」という提案を受け、当時の会会や役員を中心に、中国を訪問したのが小さな芽であった。そして2005年、日本YWCA100周年を記念して行った「ひろしまを旅」に、中国YWCAと韓国YWCAからお招きしてワークショップをもつたのが、その芽に水を注ぐことになった。

2007年秋、全国総会の前、中国YWCAからの「交流を再開し協働の道を探りませんか」という提案を受け、当時の会会や役員を中心に、中国を訪問したのが小さな芽であった。そして2005年、日本YWCA100周年を記念して行った「ひろしまを旅」に、中国YWCAと韓国YWCAからお招きしてワークショップをもつたのが、その芽に水を注ぐことになった。

### パレスチナYWCAからの緊急行動の呼びかけ イスラエルによるガザ地区封鎖を解除させるために

ガザ地区150万人の全住民がイスラエルによる封鎖の下にあり、無差別砲撃や繰り返される違法な暗殺行為に加えて、すべての境界線の封鎖・経済制裁の強化が追い討ちを掛け、それによる燃料・食糧・医薬品などの供給の制限によって人々の生活を悲惨な状況に追いこんでいます。

パレスチナYWCAは、世界中のすべてのYWCA・国連・欧州委員会(EUの執行機関)・あらゆる国際人道・人権機関、そして広範な市民団体に、この封鎖解除に向けた支援を呼びかけます。

- 1. この封鎖の解除に向けて国連安全保障理事会がアクションをとることを促すように、あなたの国の政府に強く働きかけてください。
2. あなたの国の政府の代表者に、イスラエルがガザ地区で続けている戦争犯罪の中止を働きかけるよう文書や電話で呼びかけてください。
3. 包囲されている上に、子どもたちや無防備な人々も例外なく対象とするイスラエルによる殺戮と戦争犯罪の危険に曝されているガザ地区市民への支援に向けて集会を開くなど結集してください。
4. あなたの国のメディアに、この非人道的な惨事と続行する戦争犯罪の現実を明らかにするように呼びかけてください。
5. 中東で起きている衝突と人権侵害の根本的な要因について会員で学ぶ機会を持ち続けてください。
6. パレスチナに平和と正義がもたらされるように祈り続けてください。

#### ガザ地区の罪のない人々の生命を救おう



### 創設60周年 地域に根ざって

甲府YWCAは2007年12月1日に創設60周年「感謝の集い」を行いました。榎本愛子初代会長はじめ、多くの会員が山梨県との卒業生という形で、現在中・高専生の葉茂洋子先生が会員ということも、同校を会場としてお借りしました。第1部礼拝は賛助会員と同校オムニバスの横手多佳子先生が奏楽しつつ「聖書の念 担当の田口重彦先生が「痛みを負う信仰」と題しメッセージを話して下さいました。

甲府YWCA 会長 五味優子
副会長 松木田博
甲府YWCA 事務局長 山梨英和
山梨英和と中宗教主任・大木正人先生、宮田喜久代伝島YWCA会長よりお祝いのスピーチをいただきました。

### 次はあなたがファシリテーター すぐに使える「平和ワークショップの素」 お見せします!



表題は、2月2日～3日、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)で開催したワークショップ大会のキャッチフレーズである。熊本・松山・神戸・京都・名古屋・東京・日本YWCAファウンデーション委員会やビジョン2015委員会委員の協力を得て開いた13のワークショップには全国各地から72名の参加があった。

各ワークショップのファシリテーターの多くはYWCAの若手会員で、地域YWCAでの日常活動をモチーフにして、持ち前のタレントを發揮して実にみごとにワークショップを展開。理科実験・朗読・移住女性・非「核」・多文化共育・リーダーシップ・ファンドレ



イジング・大きな絵描き・生と性・シナリオづくり...など、ワークショップの切り口はさまざまだが、一人ひとりがかげえのない存在であることに気づくとき、そこにエンパワーが生まれる、自分を愛し他者を愛することが、平和をつくり出すチカラとなる、というメッセージが各ワークショップに込められていたのではないだろうか。これこそYWCAが提供するワークショップである。

ワークショップ大会は、すご腕ファシリテーター、キムリンこと金香百合さん(ホリスティック教育実践研究所)＝写真上＝による全参加者対象のワークショップでスタートしたが、人間が生きていくためには「からだの栄養」と「こころの栄養」の二つが大切という金さんのメッセージが13のワークショップすべてにつながったと感じ、企画者の一人としてうれしい。「女性たちが自分の考えを堂々と発言する姿を初めて見ました」という男性



参加者の感想も飛び出した。ビジョン2015委員会では、これら13のワークショップを誰もがファシリテーターとして実践できるように、その目的と進行方法をまとめた冊子を作成する。ファシリテーターとは、そこに集う一人ひとりをもつタレントを引き出す者。YWCAの活動のすべての場面で、「あなたがファシリテーター」となるために、冊子をぜひ活用していただきたい。発行は4月を予定。(日本YWCA職員 西原美香子)

## 女性の声がかかれる世界に

### 倉戸ミカ

そんな女男について行くからやん、アホやなあ、とトイプ事件があるらしいと思ってしまいました。そしてあえて、悪いのは女性ではなく男性だということをおもひ起します。カギをかけたとしてある自転車を持ち主に黙って乗って行ったら犯罪であるように、女性がたとえ裸でいたとしても暴力をばたらいていいわけがないのです。でも、性暴発のときには、被害者に暴力の責任が負わされがちです。被害者を傷つけ、被害者が声をあげることまでできなくさせます。そして加害者は、処罰を免れます。私たちは、この連鎖を断ち切らなくてはなりません。

(横浜YWCA会長)

協力者がごさいませ... 小川野子 小川野子 小川野子...



特集

この1年の中国との交流

1面で紹介したように、この1年、日本と中国のYWCAがお互いの理解を深め、平和な未来を築くために交流を深めてきました。

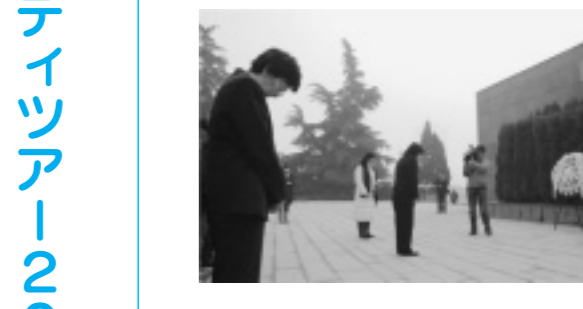
日本YWCA

南京を考える旅2007

虐殺から70年の南京を訪ねて

70年前、日本軍が南京の街を占領した12月13日に南京の地に足を踏み入れることに緊張しながら、10代〜70代までの日本からの19名は上海浦東国際空港から、19名は上海浦東国際空港から降り立った。しかしYWCAの旗を持って出迎えてくださった施海中国YWCA幹事の姿を見て緊張が解けた。金、耐中国YWCA総幹事代行も北京で行われている会議を2日間抜けて空港で出迎えてくださり、南京までの400km近いバスの行程を一緒してくださった。また昨夏、「ひろしまを考える旅」の参加者であった王紅西安YWCA会

長が開会礼拝のためだけに遠方にもかかわらず南京に來られ、ほんの一時であったが旅の参加者と良縁を結び合った。その夜南京市教育局主催で南京YMCA/YWCAが歓迎会を催してくださった。お腹も心も温まり「南京を考える旅」が始まった。翌日、拡張のための建て替えが完成した侵華日軍南京大虐殺遭難同胞記念館を訪れた。皆が防寒具に身を包んでいる中、コートを着き、石井摩耶子日本YWCA会長が献花、俣野尚子副会長が祈りを捧げた。写真真下。中国語にも訳された祈りが



たどき、両国の参加者から「お」と感嘆の声が上がった。今回のプログラムは「平和のパワーは私たちの心にある！」を実感する旅であった。「南京を考える旅2007」実行委員 勝美恵

名古屋YWCA

天津YWCAとの交流

懸け橋になりたい

数年前、中国人の留学生が「天津YWCAと名古屋YWCAの懸け橋になりたい」と名古屋を訪ねてきたことがあった。具体的な形にできず時が過ぎた。2004年秋、西安YWCAの落成式で、天津YWCAの総幹事や副理事長と出合い、留学生のことを伝え、両YWCAの交流ができたらいいですね、という話で別れた。

「一層」をあらわした。日中間の脆さ・危うさを感じた幹部委員会では、市民レベルの顔と顔の見える関係づくりの重要性を確認し、天津YWCAとの交流をすすめることを決めた。その年、日本YWCA主催の「ひろしまを考える旅」に天津YWCAから2名を招待し、ともに平和について考える機会をもった。名古屋での交流会では多くの会員が出会い、「一衣帯水の地・中国」を実感できる交流のスタートとなった。昨年の夏、20代から70代までの16名は、天津YWCAを訪ね

やっと実現の運びとなった横浜YWCAの上海スタディーツripは「ともにつくる未来」の副題のもとに07年9月2日から7日まで行われました。横浜YWCAから7人、大坂YWCAから1人、事前学習からお世話になった大妻女子大学の石川照子先生と2人の学生、チラシを見て参加して下さった男性の総勢12人での5日間でした。構成メンバーのバランスの良さ(各年代が揃ったこと)、男性が参加し下さったこと、に加えて全員がそれぞれに大きな役割を果たし、実り多い思い出に残る交流の第一歩を踏み出すことが出来ました。上海YWCAはYMCAの経営するホテルの中にあり、「車

07年度日本・アラブ女性交流プログラム

「女性と社会教育」をテーマに交流

日本・アラブ女性交流プログラムは、ヨルダンのパスマ女王の提案により96年に2国間でスタート。その後エジプト・パレスチナが加わり、現在にいたっている。「国連NGO国内婦人委員会(※註)」がその実施を外務省から委託され、加盟団体の持ち回りで派遣(秋)と受け入れ(冬)が行われている。今年度はYWCAがこの担当に当たり、「女性と社会教育」をテーマに交流を実施した。

※国連NGO国内婦人委員会とは……国連・経済社会理事会上に諮問的地位をもつ国際団体に連なる国内10の女性団体が参加。国連総会への日本政府代表团に、毎年女性代表を送り出している。

派遣

07年10月19日〜27日、エジプト・パレスチナ・ヨルダンを訪問。石井摩耶子日本YWCA会長を団長に、同国内委員会の江尻美穂子委員長(東京YWCA会員)、雀部真理(大阪YWCA会員)の3名が、「女性と社会教育」に関する発題を携えて出かけた。各国正味2日ずつの日程で、行く先々で意見交換会・交流会をこなし、さらにYWCAも訪ねるという強行軍。エジプトに行きながらピラミッドも見られない悲哀も味わいつつ、豊かな出会いに恵まれた。

エジプトでは、3人の女性が学生時代に始めたという「女性と社会協会」の活動に感銘を受けた。貧困地区での識字教育から、女性への小口融資、さらには女性のためのクリニックへ。個人の「想い」がどどん力を得て輪を広げていく地道なパワー。参加体験を語る女性たちの表情は眩しいほどであった。

パレスチナでは、まず自治政府女性省副大臣(女性)を表敬。あいさつの冒頭「独立国家の樹立を望む」との言葉に、襟を正される思いがした。次に表敬したラマラ市長は、大きな市では初めてという女性市長。ゆったりとおらかな雰囲気の中、イスラエル占領下にある問題やビジョンを語ってくださった。草の根グループ「女性センター」では、オリーブ農家の女性たちが、ジェンダー・意思決定・政治参画・手芸・法律・コンピュータなどのコースを意欲的に受講し、自ら力をつけている様子に感銘。ここでは全員が伝統的なベール姿であったが、見かけは保守的でも中味はバリバリ変革を実践する姿に元気をもらった。リーダーの方は、逮捕・拘禁されて前の活動をやめざるを得なかった経験をもつ。厳しい中でこそ身につけられた凛とした穏やかさが素敵だった。

ヨルダンではまず、女性の酪農品生産や縫製のプロジェクトを見学。翌日には社会開発大臣を表敬して、国家の「戦略的開発計画」を伺った。軍人出身である大臣(男性)が自らの言葉で熱意をもって女性施策を語られたのが印象的であった。

3カ国でYWCAを訪ね、初めて行ってもなぜか懐かしいYWCAの温かさに心とんだ。

受け入れ

1月26日(土)〜2月2日(土)、同じ3国から1人ずつの代表を迎えた。東京・大阪で公開シンポジウムと表敬訪問や交流行事を行い、途東京都では平和ミュージアムも見学した。エジプトのラガアさんは国家母子評議会という政府系の機関を代表して、ヨルダンのナフラさんは全国女性総連盟を代表して、そしてパレスチナのマハさんはラマラYWCA副会長。それぞれが「社会教育」のテーマで発題されたが、特にマハさんが語ってくれたパレスチナの現状が、聞く人の心に最も響いたのではないと思う。国際団体に連なっている恩恵を身近に感じられた、忙しくも刺激的な1週間であった。

\*詳しくは、報告書(3月末日発行予定)をご覧ください。



07年10月パレスチナのバイトアナンの女性センターにて



東京でのシンポジウム(08年1月27日)



「赦し」と聞くと何か特別なことのように思えるかもしれませんが、人間関係がある所ではどこでも、私たちはこの「赦し」を日々体験しながら生きているのではないのでしょうか? 時々、赦せない人や赦せない事柄に出くわしたとき、私自身、どれだけ多く赦されて生きてきたのかを思い出します。そして感謝が込み上げてくると赦せる心が生まれてくるのです。「赦し」は私たちが過去から解放し、人生に新しい希望の光をもたらします。春はもうすぐ。小さなつぼみが開くように、赦しと愛の花が世界中の人々の心に咲きますように。 彩ノエル(田坂彩子)(東京YWCA会員/現在、ロサンゼルスVineyard X-Treme教会にて牧師研修中)

中高YWCA紹介

横浜英和女学院中学校・高等学校

私たち横浜英和のYWCAは、中高あわせて39人で活動をしています。主に手話教室や点字教室を行います。今年度の手話教室では講師の先生をお招きして、簡単な自己紹介とZARDの有名な曲「負けないで」を手話で表現できるように教えていただきました。

他には学校周辺のゴミ拾いや、月1回の老人ホーム訪問などの活動もしています。この老人ホームでは、クリスマス会を合同で行い、私たちからはハンドベルの演奏と、手作りのプレゼントとカードをお配りして、楽しい一時を共に過ごします。

夏休みには他校の中高YWCAの人たちと一緒にカンファレンスという宿泊行事に参加しています。毎年、福祉や平和に関連しているテーマについて学び、交流をもちます。1月にはリユニオンがあり、再会を喜びます。

また、年に1度全校に呼びかけて開催している福祉教室では、毎年違ったテーマのもと、講師の先生のお話を聞かせていただきます。今年は日本YWCAの方に来ていただいた、世界YWCAの活動について学びました。中高YWCAとして活動していても、世界のYWCAの活動を知っている部員は多くありません。私もその中の1人だったので、より自分がYWCAの一員であることに誇りを持つようになりました。



これから中高YWCAの伝統を守りつつ、活動を続けていきたいと思っています。

横浜英和女学院 中高YWCA部長 須藤聡実(高校2年)

所在地: 横浜南区藤田町124 TEL: 045・731・2862